

記念物
【名勝】

か びらわんおよ お も と だけ
川平湾及び於茂登岳

指定年月日／1997（平成9）年9月11日
所在地／川平・梓海・外



川平湾は石垣島西北部に位置し、奥深い入り江の風光明媚な湾である。琉球石灰岩からなる7つの小島が湾口を塞ぐように点在している。晴れた日には、紺碧の海に浮かぶようにたたずむ島々と真白な砂浜のコントラストが絶景を作り出す。

この湾は琉球王国時代、石垣島から沖縄本島へ向かう船の風待ち港であり、婦女たちが織り上げた布を海水に浸け、砂浜の上で干し晒し仕上げる「布晒し」をする場所でもあった。現在では、湾中央部で行われている黒真珠の養殖でも有名な場所になっている。

於茂登岳は県内最高峰（標高 525.8m）の山岳で、古くから八重山の人々の信仰の対象として、文化的にも貴重な山岳である。名称の由来は「島の大本（うふむとう）」によるとされ、宇武登・宇本・於本などの表記も古文書類に見られる。

川平湾から望む於茂登岳との対比が絶妙で、大小の島々からなる海浜と亜熱帯林に覆われた山岳とが、八重山固有の文化史的価値とも深く関連しながら一体の美しい景観を見せている。

記念物
【特別天然記念物】

コウノトリ
Ciconia boyciana

指定年月日／1956（昭和31）年7月19日
所在地／地域を定めず指定



撮影：嵩原建二

コウノトリは全長約 110～115 cm、翼開長 160～220 cm、体重 4～6 kg にもなる大型の水鳥で、羽色は白と金属光沢のある黒、くちばしは黒みがかった濃い褐色、脚は赤く、目の周りも赤くふちどられている。

かつては日本列島に留鳥として生息していたが、明治期以後の乱獲や生息環境の悪化により、1956（昭和31）年には国内で 20 羽にまで激減した。

1962（昭和37）年に文化財保護法に基づき、兵庫県と福井県が「特別天然記念物コウノトリ管理団体」の指定を受け、1965（昭和40）年から人口飼育が開始された。飼育下のコウノトリの死亡や、

産卵から孵化の難しい課題を乗り越え、人工飼育・人工増殖が成果を上げ、2005（平成17）年には世界初のコウノトリの放鳥が実現した。

2012（平成24）年には、野生で生まれたペアから雛が誕生し、野生化は順調に進んでいる。今後は農薬や化学肥料の使用を極力控えたエサ場となる水田の整備など、コウノトリと共存できる自然環境の確立が重要である。